

東レ株式会社

2025年3月期 第3四半期決算説明会（電話会議）
質疑応答要旨

日時：2025年2月12日

説明者：取締役 岡本 昌彦

本資料中の業績見通し及び事業計画についての記述は、現時点における将来の経済環境予想等の仮定に基づいています。
本資料において当社の将来の業績を保証するものではありません。

<全体>

Q. D プロ(特定事業・会社の収益改善プロジェクト、DARWIN プロジェクト)の進捗について確認したい。D プロによる収益改善効果額は上期で 100 億円弱だったが、上期と同じ程度のペースで進捗しているという理解で良いか？第 4 四半期も同じペースでの改善が見込まれるか？

A. D プロについては、3Q 累計で 100 億円台中盤の効果があつた。全セグメントで改善しており、セグメントの内訳としては半分が機能化成品、残りの半分が炭素繊維複合材料と繊維であった。通期では 200 億円台の増益効果を見込んでいる。

Q. 戦略的プライシングの進捗・効果について教えて欲しい。

A. 戦略的プライシングについては、2025 年度を最終年度とする現在の中期経営課題の期間内で、200 億円規模の効果を目指しており、順調に進捗している。2024 年度の事業利益の効果額としては 100 億円以上を見込んでいる。

Q. 現在の中期経営課題は、2025 年度が最終年度となるが、事業利益目標である 1,800 億円の達成に向けての課題について教えて欲しい。戦略的プライシングや D プロは前倒しで進捗しているかと思うが、2025 年度に向けて上積みできる余地はあるのか？来期に向けての業績拡大についてコメントをいただきたい。

A. 2025 年度に向けては、D プロや戦略的プライシングを継続する。戦略的プライシングについては、価格是正の効果は 2024 年度においてかなり発現している。今後は、販売構成の改善、高付加価値品への転換、新製品・新価値の創出等にドライブをかけ、効果を発現させていくことが課題と認識している。需要が好調な用途、フィルムの電子部品関連用途やコンデンサ用 OPP フィルム、繊維の縫製品一貫型事業等で拡販していく他、炭素繊維複合材料は航空宇宙用途等の需要回復を見込んでおり、拡販を進める。産業用途についても、圧縮水素ガスタンクの需要立ち上がりは遅れているが圧縮天然ガスタンク需要は拡大基調にあり、風力発電も回復トレンドにあるのでしっかりと拡販を進めていく。現在取り組んでいる課題をしっかりと進め、やりきることで 1,800 億円達成を目指したい。

Q. 米国トランプ政権の影響についてお伺いしたい。東レは中国から米国への物の動きもあるが、地産地消が多いと思う。中国や米国ビジネスへの影響は？

A. 情勢が流動的であり、確たることは申し上げにくいですが、全体感について説明する。トランプ大統領が言っていることを実行に移せば世界経済を下押しするリスクがあると考えており、当社にも直接的あるいは間接的に影響があると想定している。今後実行に移される通商政策と関係各国の対応を注視し、サプライチェーン全体に与える影響や変化を見極めて対応を行っていく。当社は炭素繊維複合材料事業、フィルム事業、樹脂事業、水処理事業について米国内で強固な生産拠点を有しており、その強みをしっかりと発揮できるように事業運営を行っていく。また、米国に生産拠点のない事業・製品についても、世界各地域で生産拠点を展開し、グローバルオペレーションを行っており、米国向け輸出の供給元を変更するなどサプライチェーンを変更、複線化することで影響をミニマイズしていく。

<繊維>

Q. 第3四半期の状況と第4四半期の見通しについて教えて欲しい。

A. 第3四半期は秋冬物縫製品の上期への前倒しの影響はあったが、衣料用途は全般的に堅調に推移した。第4四半期はシーズン端境期なので第3四半期比で減少する見通しだが、足元の春夏物も堅調に推移しており、第3四半期から第4四半期にかけての減少幅が例年と比べると小さくなる見通し。産業用途は、エアバッグ以外の自動車用途が思ったように回復していないが、これも国内 OEM を中心に生産が回復してくれば当社素材も順調に拡大していくと見ている。D プロ対象事業は、しっかり収益改善を進めることで前年同期比増益となっており、引き続き推進していく。

<機能化成品>

Q. 第3四半期から第4四半期にかけて85億円の増収、14億円の増益を見通している理由について教えて欲しい。

A. 樹脂事業は、ABS樹脂は第3四半期比では価格差の悪化を見込んでいるが、固定費削減等の自助努力で補う見通し。ケミカル事業は、第3四半期に定修があったが第4四半期はその影響が緩和する見通し。

フィルム事業は、ディスプレイ用途、電子部品関連用途が上期に非常に好調だったが、第3四半期でややスローダウンした。第4四半期は堅調に拡大することを見込む。中期的にもデータセンターのAIサーバーなどで電子部品関連用途の需要は拡大していくと見ている。欧米フィルム子会社は価格差の改善と生産安定化による収益改善を見込む。バッテリーセパレータは第3四半期に販売量が落ち込んだが、第4四半期は北米向けの新規案件を取り込むことで販売が回復することを見込んでいる。

電子情報材料事業は、有機ELのスマートフォン向け採用比率拡大を背景に堅調に推移すると見ている。韓国子会社の回路材料はパネルメーカーの2025年モデルの本格投入に伴う販売増を見込んでいる。

<炭素繊維複合材料>

Q. 第2四半期から第3四半期にかけて47億円の減収、42億円の減益となったが状況を教えて欲しい。

A. 航空宇宙用途の大手顧客向けのサプライチェーンでの在庫調整の影響を受けたが、中期的には生産機数が順調に回復していくとみており、受注残もある。年間の生産機数想定は期初から変わっていないが、部品を生産している各社のサプライチェーンの長さや中間在庫水準の違いから、東レからの出荷および米国子会社からの出荷が異なる推移となるなど、サプライチェーンによってばらつきがある。風力発電翼用途向けラージトウも需要回復傾向にあり、しっかり拡販していく。一般産業用途向けのレギュラートウは、圧縮水素ガスタンク需要が当初見えていたよりも立ち上がりが遅れているが、圧縮天然ガスタンクや電線の芯材などの用途で拡販していく。

Q. 第3四半期から第4四半期にかけて103億円の増収、55億円の増益を見通している理由について教えて欲しい。

A. 航空宇宙用途は、大手顧客向けのサプライチェーンでの在庫調整の影響が解消傾向となる見込み。その他の航空宇宙用途も第4四半期は堅調に推移すると見ている。スポーツ用途では、汎用品は在庫調整が継続するが、アウトドアレジャーの高級モデル向けは堅調に推移すると見ている。一般産業用途は、第3四半期比改善を見込む。風力発電翼用途は2023年度と比較すると需要自体は緩やかに回復しており、しっかり拡販していく。

中期的に見ても再生可能エネルギーとしての洋上風力発電の優位性は変わらないと見ており、2025年度以降も堅調に拡大していくと見ている。

<環境・エンジニアリング>

Q. 第3四半期から第4四半期にかけて416億円の増収、44億円の増益を見通している理由について教えて欲しい。

A. 環境・エンジニアリングセグメントは、元々、国内エンジニアリング子会社の収益が第4四半期に拡大する傾向があることに加えて、今期は水処理エンジニアリング子会社の受注が堅調であり、この工事が期末に向けて進捗していくことを見込んでいる。

以 上